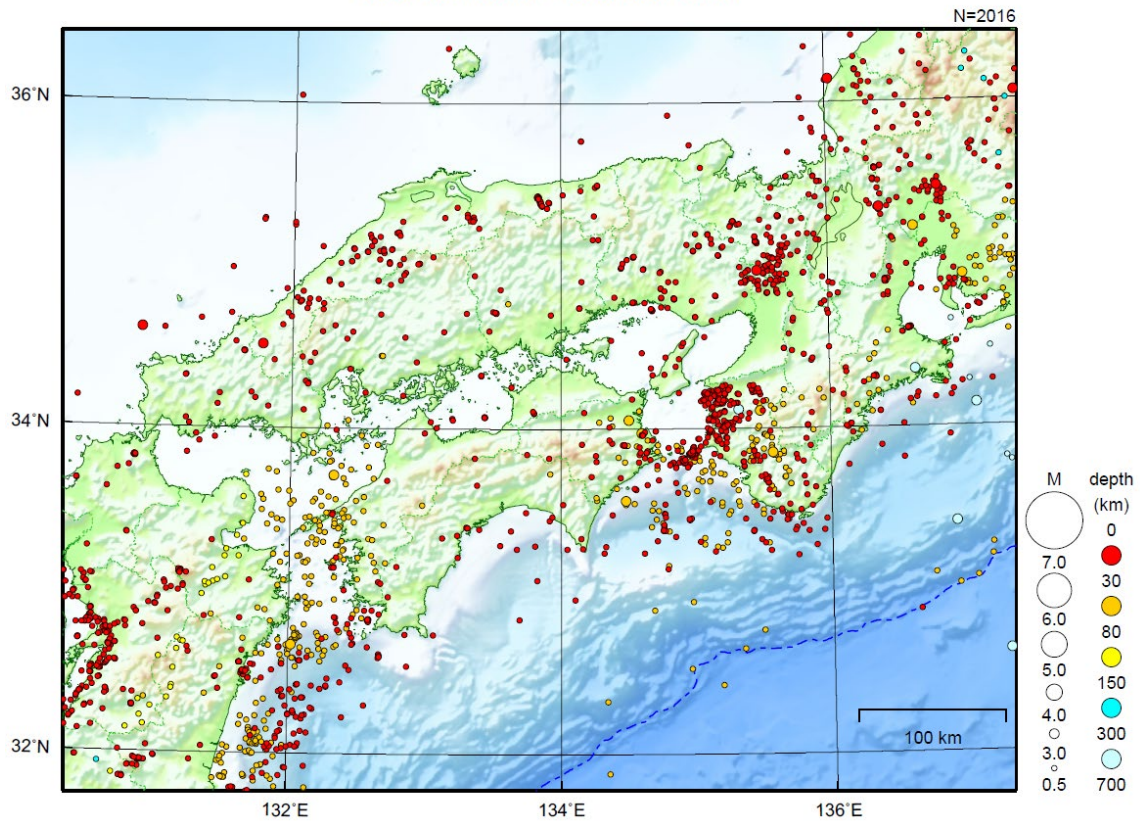


近畿・中国・四国地方

2023/10/01 00:00 ~ 2023/10/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

(上記期間外)

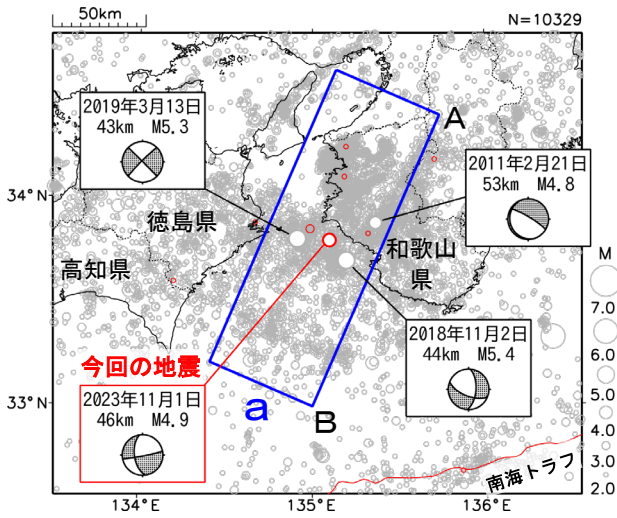
11月1日に紀伊水道でM4.9の地震(最大震度3)が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

11月1日 紀伊水道の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2023年11月5日、
深さ0～80km、 $M \geq 2.0$)
2023年11月の地震を赤色で表示

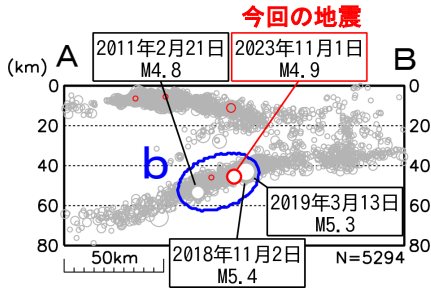


2023年11月1日07時34分に紀伊水道の深さ46kmで $M 4.9$ の地震(最大震度3)が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構は、北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

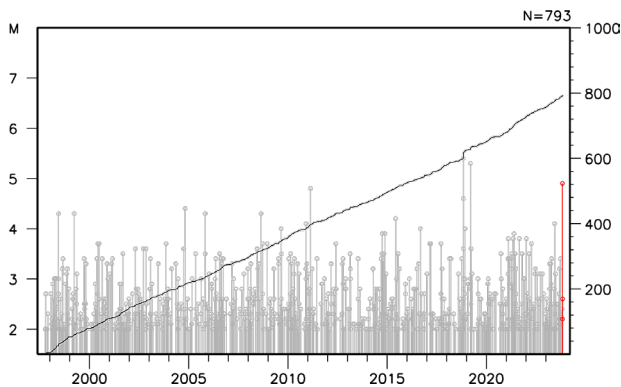
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、 $M 4.0$ 以上の地震が時々発生しており、 $M 5.0$ 以上の地震も発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺からその南側の南海トラフにかけての領域(領域c)では、1960年頃にかけて $M 6.0$ 以上の地震が多数発生している。それらの地震のうち、規模が大きなもの、昭和東南海・南海地震前後に発生しており、例えば1948年6月15日に発生した $M 6.7$ の地震では、死者2人、負傷者33人、家屋倒壊60棟などの被害が生じている(「日本被害地震総覧」による)。

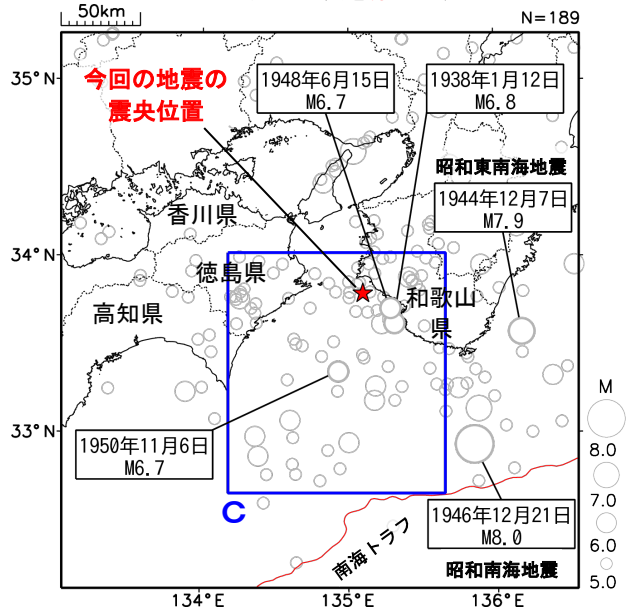
領域a内の断面図(A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2023年11月5日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
2023年11月の地震を赤色で表示



領域c内のM-T図

